

法 話

蓮如上人ご誕生六百年

道德念仏申さるべし

滋賀教区稲枝西組 報恩寺 藤實無極



「蓮如上人ご誕生六百年」と申さずにはおられません。

平成十年、ご本山で蓮如上人五百回遠忌法要が百日間お勤まりになりました。全国から四十五万人の方がご本山に参拝され、上人が建立された当山科別院へその一部八万人がお参りされました。以後、別院は内外ともに整備され、年々整ってきています。それもそのはず、別院を崇敬する講社の議員はじめ、ご門徒のみなさまのご尽力の賜と受け止めています。それほど慕われている上人ゆかりの「山科別院」なのです。

蓮如上人ご在世の頃、別院からほど近い勸修寺村に、道德という門弟がおられ、新年のご挨拶にまいりました。その時の様子が『蓮如上人御一代記聞書』の第一条にあります。

頁)と。つづいて自力の念仏と他力念仏の相違を指摘しておられます。明応二年(一四九三)は、蓮如上人七十九歳の元日となります。『聞書』は三一四条からなり、蓮如上人ご一代の法語、訓戒、上人の行動や第九代実如上人に關係する人々の言動が記録されています。しかも簡条書きになっていることから、誰にでも分かりやすく浄土真宗の教えを簡潔に大切なものを取り上げてあるところも特徴の一つです。まさに真宗門徒の生活の糧となる念仏者の生活規範となりますので、座右の銘として親しんでいただきたいものです。

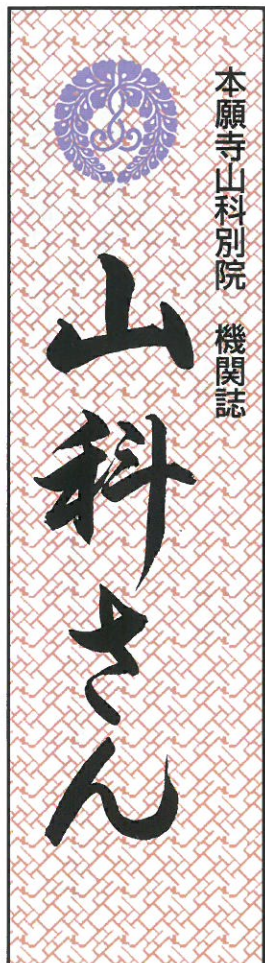
私も少年期の頃、父親が毎朝、本堂でのお朝事につづいて、お内仏で偈文の後、『聞書』を数条ずつ声に出して拝読するのを、いつも聞いていました。そのせいか、ここ数年、本堂で毎朝、正信偈六首引きの繰り読み『御文章』拝読につづいて、「お内仏でも同様に『聞書』を約二か月かけて拝読しています。ぜひみなさまにお勧めいたします。

山科別院の法要等

- 晨朝 毎日午前七時
- 中宗会 四月十三日(御親修)・十四日
- 報恩講法要 十月十三日・十四日
- 蓮如上人月忌法要 毎月十四日
- 総永代経法要 六月二十八日午後二時
- 春秋彼岸会 春分の日・秋分の日 午後二時
- 盂蘭盆会 八月十五日午後二時
- 元旦会 一月一日午前八時
- 除夜会 十二月三十一日午後二時

編集後記

このたび、山科別院の近況をお知らせすることができました。当別院の境内は、百日紅(さるすべり)の木、霧島つつじなどの多くの樹木があり奇麗な花を咲かせます。春には桜の花が、秋には銀杏の木の葉が紅葉してとてもきれいです。



本願寺山科別院 機関誌

ご挨拶

本願寺山科別院 輪番 渡邊 信



このたび、昨年の十二月一日付人事異動をもちまして当別院輪番を拝命し転任いたしましたこと

なりました。今後は新任地において、微力を尽くす所存でありますので、よろしく願います。

このたび『機関誌山科さん』につきまして十四年ぶりに発刊することとなりました。今後は、山科別院の様々な情報を発信する機関誌として別院門信徒、崇敬区域のご寺院、講社議員の皆様をはじめ、山科別院にご縁のある方々にお届けいたします。

平成二十七年度は、年に三回の発刊を計画しております。まず、近況報告からさせていただきます。平成十一年には「本願寺第八代

蓮如上人五百回遠忌法要」をお勤めさせていただきました。ご法要から十六年が経ちましたが、この間、有縁の方々のご理解とお力添えをいただき伝道教化の中心道場として今日まで歩んでおります。

平成二十二年より第二次長期発展計画を進めてまいりました。募財並びに啓発期間に多目的会館の新築、研修会館の改修工事を行い、平成二十四年四月には、当計画の集大成として「親鸞聖人七五〇回大遠忌法要」を即如ご門主様ご親修のもとご修行させていただきました。

この間、別院門信徒、崇敬区域の寺院ご住職をはじめ講社議員の皆さまには計画の完遂のためにご理解とご尽力を賜りましたこと衷心よりお礼申し上げます。

このご勝縁を、「新たな 始まり」の第一歩として、本願寺山科別院の今後を見据えた役員改革を行い長年

第三十五号

平成二十七年三月 発行責任者 輪番 渡邊 信 発行所 本願寺山科別院 京都市山科区東野狐藪町二番地 TEL:078-155-7551 FAX:078-155-7552

の役員選出体制を一新いたしました。これまでは、崇敬区域の講社役員が別院の役員に選任され、別院の運営に携わっていたこと、今日まで別院の運営を執行いただき、今日まで各役員の方々の御陰と感謝申し上げます。

現在、年に二回、講社の講長会を開催しております。別院の事業計画や事業報告などを随時報告し、併せてご意見などをいただき別院との交流をより一層深め別院講社の活性化につとめてまいります。

また歴史的なことを見えますと、本願寺中興の祖と仰がれる蓮如上人ゆかりの聖地が、この山科別院であります。

本願寺第八代宗主蓮如上人の時、一四六五(寛正六)年、京都東山・大谷本願寺が比叡山の僧徒により破却され、ご開山親鸞聖人のご真影は大津・近松御坊にご避難されてまいりました。上人六十四歳の時、一四七八(文

明十)年、江州・金森道西の願いにより、山科郷野村西中路に坊舎を建てられました。これが、山科本願寺のはじまりです。一四八〇(文明十二)年八月に御影堂が新築され、同年十一月には大津よりご真影をお移しになり、翌一四八一(文明十三)年六月には阿弥陀堂が完成、ここに松林山科本願寺と号す本山本願寺が、歴史上にその姿を現したのでした。

山科本願寺は一説によれば、御影堂・阿弥陀堂を中心四十万坪ともいわれる広大な寺領を有し、「寺中廣大無辺にして、莊嚴さながら仏国の如し」とうたわれました。その後、蓮如上人のご息男第九代実如上人、さらに第十代証如上人と続いて諸堂宇が整備され、寺内町は足の踏み場も無く、お念仏の声絶えることも無いと言われるほどのにぎわいを見せました。

ところが一五三二(天文元)年八月、日蓮宗徒、比叡山僧徒が、六角定頼の兵とともに本願寺を襲撃、やがて御堂に火が放たれ、ついに華麗を極めた山科本願寺もことごとく灰尽に帰し、本願寺は蓮如上人が造営されていた大坂・石山坊舎(現在の大阪城)に移り、五十三年間に亘って隆盛を極めた山科本願寺は消滅したのであります。十七年の歳月を費やして一七二二(安永元)年三月現在の本堂が建立され、続いて一七八二(天明元)年蓮如上人三〇〇回忌にあたって、鐘樓・太鼓樓・茶所等を増築されました。また、中宗堂は一八二三(文政八)年蓮如堂として本堂の南に建立されました。